

# Racing Topics

## ★中央競馬ニュース 文・谷川善久★

### ●阪神ジュベナイルフィリーズはソダシが優勝

12月13日(日)に行われた阪神ジュベナイルフィリーズ(G I)では、白毛馬のソダシ(牝2歳/栗東・須貝尚介厩舎)が1番人気に応じて優勝しました。これまで白毛の馬はハヤヤッコがレバードS(G III)、ユキチャンが関東オークス(Jpn II)などを勝利していますが、JRAのG Iは初制覇となります。

### ●戸崎圭太騎手がJRA通算1100勝を達成

12月12日(土)の5回中山3日・第10レースとして行われたアクアラインSではサンライズカラマが1着となり、同馬に騎乗した戸崎圭太騎手(美浦・田島俊明厩舎)は、史上33人目、現役では16人目となるJRA通算1100勝(7676戦目)を達成しました。なお戸崎騎手は、地方競馬では通算2430勝をあげています。

### ●重賞ウィナー6頭の競走馬登録抹消

2018年安田記念(G I)や2020年フェブラリース(G I)などの勝ち馬モズアスコット(牡6歳/栗東・矢作芳人厩舎/JRA通算23戦7勝・地方2戦0勝・海外1戦0勝)、2019年川崎記念(川崎・Jpn I)などの勝ち馬ミツバ(牡8歳/栗東・加用正厩舎/JRA通算37戦8勝・地方15戦3勝)のほか、2015年から2017年までスポーツニッポン賞ステイヤーズS(G II)を3連覇したアルバート(牡9歳/栗東・橋口慎介厩舎/JRA通算36戦9勝)、2019年スポーツニッポン賞ステイヤーズS(G II)の勝ち馬モンドインテロ(牡8歳/美浦・手塚貴久厩舎/JRA通算30戦8勝)、2015年毎日杯(G III)の勝ち馬ミュゼエイリアン(騏8歳/美浦・黒岩陽一厩舎/JRA通算33戦3勝)、2019年日刊スポーツ賞シンザン記念(G III)の勝ち馬ヴァルディゼール(牡4歳/栗東・渡辺薫彦厩舎/JRA通算9戦3勝)は、12月11日(金)までに競走馬登録を抹消されました。モズアスコットは北海道新ひだか町のアロースタッド、アルバートは北海道新冠町の優駿スタリオンステーションで種牡馬となる予定。ミツバはJRA馬事公苑、モンドインテロは北海道苫小牧市のノーザンホースパーク、ヴァルディゼールは北海道苫小牧市のノーザンファーム空港で乗馬となり、ミュゼエイリアンは地方・大井競馬に移籍する予定です。

## ★地方競馬ニュース 文・宇田川淳★

### ●船橋のアランパローズが全日本2歳優駿(川崎)を逃げ切る

全日本2歳優駿(Jpn I、12月16日、川崎、1600m)は、逃げた2番人気の船橋所属馬アランパローズ(左海誠二騎手、牡、父ヘニーヒューズ)がランリョウオー(浦和)を5馬身引き離し、デビュー以来の連勝を5に伸ばしました。ルーチェドーロは3着、タイセイアゲインは4着、3番人気のバクシンは5着、単勝1.9倍で断然人気のデュアリストはスタートが今ひとつで先手が取れず7着、ラストリージョは8着でした。

### ●カペラS(中山)の地方馬は大井のサブノジュニアの8着が最高

カペラS(G III、12月13日、中山)には3頭の地方在籍馬が挑戦しましたが、JBCスプリントの覇者で5番人気に推されたサブノジュニア(大井)は8着、イダペガサス(北海道)は9着、サイタスリレッド(大井)は13着に敗れています。

### ●金沢ヤングチャンピオンはアイバンホー【各地の主要2歳重賞】

金沢ヤングチャンピオン(11月22日、金沢、1700m)は、5番手を進んだ2番人気の北海道からの移籍馬アイバンホー(牡、父プリサイスエンド)が、6戦全勝で単勝1.8倍の支持を集めたサブノタマヒメとの競り合いを半馬身差で制し、初の重賞制覇を果たしました。

### ●サクセスエナジーらが参戦、12月23日の兵庫ゴールドT(園田)

兵庫ゴールドトロフィー(Jpn III、12月23日、園田、1400m)は、トップハンデの58.5kgでもサクセスエナジーが中心、以下ラプタス、トップウイナー、ゴールドクイーン、ベストマッチョ(川崎)の順に有力視されます。

※最新の開催情報は各主催者のホームページ等でご確認ください。

## ★海外競馬ニュース 文・秋山響★

### ●香港国際競走〜日本調教馬が2勝をあげる

12月13日に香港のシャティン競馬場で行われた香港国際競走で日本調教馬が2勝をあげる活躍を見せました。まず最初に勝利を手にしたのはG1香港スプリント(3歳上、芝1200m)のダノンスマッシュ(牡5歳、父ロードカナロア、栗東・安田隆行厩舎)。大外枠からのスタートでしたが、R.ムーア騎手を背に中団から見事に差し切ったG1初制覇となりました。父子での優勝はレース史上初めてのことで(ロードカナロアは2012年・2013年連覇)。そして、日本に2つ目の勝利をもたらしたのはG1香港C(3歳上、芝2000m)のノームコア(牝5歳、父ハービンジャー、美浦・萩原清厩舎)。当初騎乗予定だったC.スミヨン騎手が新型コロナウイルスの検査上の問題で騎乗が不可能となったため、急きょZ.パートン騎手に乗り替わりとなった同馬でしたが、中団やや後方でじっくりと構えると、直線で鋭く伸びて優勝。昨年5月のG1ヴィクトリアマイル以来、2つ目となるG1勝ちを果たしました。なお、このレースでは昨年の覇者であるウインブライトが $\frac{3}{4}$ 馬身差の2着に入り、日本調教馬のワンツーフィニッシュとなりました。